



# 日本遺産 Japan Heritage

Vol. 9

## 「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ～日本近代化の躍動を体感できるまち～」 立神係船池 (旧 佐世保海軍工廠 修理艦船繋留場)

1905年、日露戦争で損害を受けた艦船の迅速な修理が求められた佐世保鎮守府では、3つのドックをはじめ大規模な工事が次々に始まりました。中でも、最も力を注がれたのが立神係船池の建造です。これは、まず海軍工廠(工場のこと)の海側に突き出ている立神岬と2つの島(大蛇島、小蛇島)を堤防で取り囲み、入口をふさいで海水を排出。その後、海底を掘削して泥を運び出し、岸壁を建造して、再び海水を入れるという一大事業でした。工事面積は南北575.7m、東西363.6mにも及び、「明治時代における海軍最大の土木工事」と評されました。

また、国内では1892年頃から、国産セメントが原料のコンクリートを使用した護岸において、海水に接した部分の亀裂や崩壊などの事故が頻発し、問題となっていました。1899年、佐世保鎮守府の海軍技師となった真島健三郎氏は建築科長・吉村長策氏の下で研究に取り組み、試行錯誤の末、セメントに火山灰を混ぜることで海水に耐え得るコンクリートの製造に成功。この方法が用いられ、1916年、実に11年の歳月を要して立神係船池が完成し、「1万トン級の船なら同時に9隻つなぐことができる東洋一の施設」として全国から注目を浴びました。



### 日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの



建造中の海軍工廠第一船渠



現第五船渠(旧第一船渠)

問合せ 佐世保市観光課 ☎0956-24-1111

日本遺産 鎮守府

検索